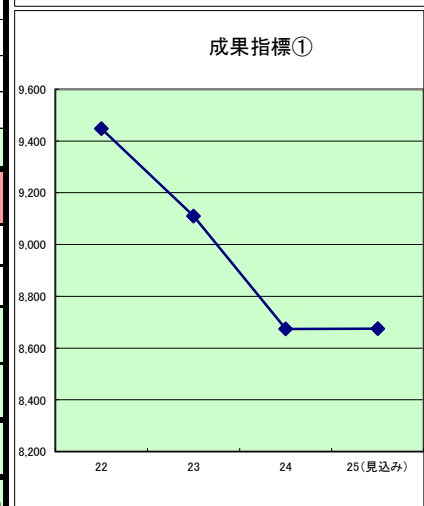
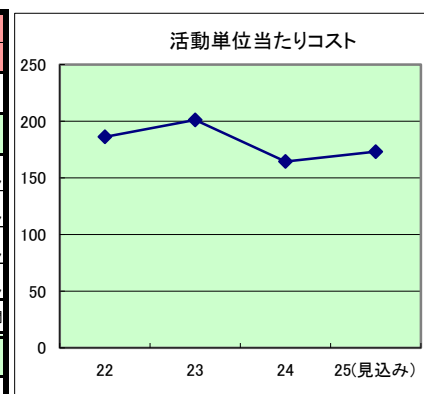


事務事業名			図書館管理運営事業		会計 1 一般会計 10 教育費 5 社会教育費 9 図書館運営費 8 図書館総合運営
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		
	施策(節)	3	生涯学習		
	施策の方向	(3)	図書館活動の充実		
関連する計画等			羽曳野市子ども読書活動推進計画		作成部署 図書館課
事業の概要(目的・内容)			・図書館では、多様な資料や情報を収集して地域住民の皆様の課題解決を支援し、地域を支える情報拠点として事業を推進している。業務内容は、資料提供を中心に蔵書管理、資料収集、リクエストサービス、レファレンスサービス(読書相談)、児童サービス、障がい者サービス、学校図書館支援事業、各種集会文化活動(講座・講演会等)、利用啓発(資料展示)、図書館関係団体への援助・連携、ステーションライブラリーや森のゆうびん局の運営、広域貸出サービス等を行っている。		
根拠法令等			社会教育法、図書館法		
事業期間			☒ 10 年以上 ☐ 5 年以上10年未満 ☐ 5年未満 (平成 年度開始)		
事業開始時から の状況変化			府立のブックステーションとして図書館業務を開始し、現在では6館1ブックステーションで年間約104万冊を貸出している。		
実施手法			☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()		
委託先			☒ 市外郭団体委託 名称(羽曳野市施設管理公社) ☒ 民間委託 ☐ その他		
			委託内容		
			・図書館業務委託 ・データパンチ委託 ・図書館システム保守		

区 分		22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込み)
事業費【1】		44,606	76,019	50,701	48,776
人件費【2】		117,814	110,724	120,196	124,402
職員数	正規職員	6.00 人	6.00 人	6.00 人	5.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	3.00 人	4.00 人
	嘱託職員	29.00 人	20.00 人	21.00 人	21.00 人
	臨時職員	7.00 人	9.00 人	9.00 人	12.00 人
超過勤務(参考)		7.00 時間	1.00 時間	3.00 時間	0.00 時間
総事業費【(1)+(2)】【A】		162,420	186,743	170,897	173,178
財源内訳	国庫支出金	0	25,851	0	0
	府支出金	9,670	4,987	0	3,210
	市債	0	0	0	0
	その他(使用料・手数料等)	0	0	0	0
一般財源【B】		152,750	155,905	170,897	169,968
活動指標【C】		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)
① 年間個人貸出冊数		871,698	928,132	1,038,588	1,000,000
② 年間団体貸出冊数		42,616	39,826	46,043	47,000
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①)		186 円	201 円	165 円	173 円
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】)		175 円	168 円	165 円	170 円
市民1人当たりコスト (【A】÷人口)		1,376 円	1,594 円	1,466 円	1,491 円
一般財源【B】の推移(前年度比)			2.1 %	9.6 %	▲ 0.5 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ ☒) ※該当項目すべてに ☒		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 2. 左記1によらない対象件数などの増減 ☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☒ 4. 国庫支出金など特定財源の増減 ☐ 5. その他()			



成果指標 (事業の達成度 を測る指標)	指標名				平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	①	市民一人当たりのサービス効果	円	目標	9,411	9,449	9,111	達成率(%)	8,675
		(式又は説明) 購入図書平均単価×貸出冊数÷図書館費÷人口		実績	9,448	9,110	8,674	95.2%	
	②	貸し出しサービス指標	円	目標	785	788	670	達成率(%)	693
		(式又は説明) 購入図書平均単価×貸出冊数÷図書館費×100		実績	787	669	692	103.3%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
	○	○								

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	図書館は、子どもからお年寄りまで、だれでも気軽に資料を利用できる機会を補償することにより、豊かな人間形成の創造に寄与する施設であり、市が設置することは妥当である。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	他市に比して正職員数も少なく、経費を抑えた効率的な運営を行っている。また、他府県から郵送料を伴う資料を借り受けた際には、受益者負担の観点から、送料を負担してもらっている。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない		☒	☐	☐		
民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）		☒	☐	☐		
協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☒	☐	☐	各種ボランティア団体との協働により、図書館サービスを提供している。	
有効性 達成度	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	図書館の情報提供機能により、地域住民の課題解決に寄与し、有効性が高い。	
	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐		

担当 部局 評価	総合評価	
	☒ 継 続 ☐ 改 善 ☐ 縮 小 ☐ 廃止・休止 （概ね現行どおり継続して実施） （実施方法の改善を検討する） （事業規模の縮小を検討する） （廃止・休止を検討する）	
	今後に向けて（取組方針・具体的な改善改革案など） 平成24年度の図書館における個人貸出冊数は、1,038,588冊で市民一人当たりの貸出冊数に換算すると8.91冊となり、府下で5番目の数値となった。今後も市民の皆様に安心して利用していただくために、資料を紛失や盗難から守るためのBDS（貸出確認装置）を設置し、図書館業務の更なる拡大を行うための組織体制の確立を目指す。	
行 革 本 部 評 価	総合評価	
	☐ 継 続 ☐ 改 善 ☐ 縮 小 ☐ 廃止・休止	
	評価理由・意見	